

第91回

事前参加登録制

【開催地】

国立オリンピック記念
青少年総合センター

【参加登録】



04.01 火

04.20 日

医学教育 セミナー & ワークショップ

2025 春

05.29 THU

05.31 SAT

MEDPark (メドパーク)

05.30 金 13:30▶17:00

[新企画1] 第26回国公立大学医学部・歯学部教務事務職員研修共催企画

医療系大学の学生と育みたい新たな資質・能力とその評価



MEDStudio (メドスタジオ)

05.29 木 13:00▶17:00

05.30 金 09:00▶12:00

[新企画2]

隣の教育実践を聴いてみよう！



Workshop

05.29 木
13:00▶17:00

WS-①

医学教育研究で研究費申請書を書いてみよう ~科研費を主として~
菊川 誠 (九州大学) 大久保由美子 (帝京大学) 片岡仁美 (京都大学)



WS-②

医学教育実践を「カイゼン」のフレームワークで最適化しよう
伊藤彰一・鋪野紀好・清水郁夫・塚本知子・笠井 大・山内かつ代・荒木信之・田島寛之・Fatema Nusurat・小野寺みさき・木村康彦 (千葉大学)



Workshop

05.30 金
09:00▶12:00

WS-③

働き方改革時代の医療系学生臨床実習と学習アプローチのあり方
長崎一哉 (筑波大学) 徳増一樹 (岡山大学病院) 橋本恵太郎 (筑波大学附属病院)



WS-④

Keys to a Strong Research Abstract : 国際学会に採択される医療者教育学抄録作成の鍵
林 幹雄 (関西医科大学) 野村 理 (MEDC) 鋪野紀好・清水郁夫 (千葉大学) 水本潤希 (愛媛生協病院) 藤川裕恭 (慶應義塾大学)
菊川 誠 (九州大学)



WS-⑤

グラフィック・メディスン -マンガを活用した医療者教育の可能性
中垣恒太郎 (専修大学) 落合隆志 (日本グラフィック・メディスン協会) 森永康平 (獨協医科大学) 鈴木 繁 (ニューヨーク市立大学)



WS-⑥

専門職連携教育 (IPE) の初歩の初歩 -いいIPE、よくないIPEって何だろう
下井俊典・酒井郁子・井出成美・孫 佳茹・齊藤可紗 (千葉大学)



Workshop

05.31 土
09:00▶12:00

WS-⑦

カリキュラムに医療安全教育を組み込むには？
田中和美・岸 美紀子・渡辺 恵 (群馬大学) 清水郁夫 (千葉大学)



WS-⑧

リフレクションの扉：ディブリーフィング入門
八木街子 (自治医科大学) 衛藤由佳・万代康弘 (慈恵会医科大学) 佐藤絵梨 (ねりま健育会病院)



WS-⑨

持続的に発展できる医療系大学の医療者教育部門/ユニットのこれから！
ユニットの会世話人グループ 西城卓也 (MEDC) 高橋 誠 (北海道大学) 椎橋実智男 (埼玉医科大学) 長谷川仁志 (秋田大学)
大槻眞嗣 (藤田医科大学) 赤池雅史 (徳島大学) 西屋克己 (関西医科大学) 小松弘幸 (宮崎大学)



次回

【開催日】 2025.11.27 ▶ 11.28 【開催地】 鹿児島大学

*記号 (TL 等) はアソシエイト認定のための学習領域を表しています。詳細は MEDC のホームページをご覧ください。

医療系大学の学生と育みたい新たな資質・能力とその評価

新規拠点事業の新企画となります。医療系学生の教育に携わるあらゆる教職員や関係者を対象として、いくつかのテーマを基調としたミニレクチャーに耳を傾けつつ、多様な参加者の様々な視点や考えを楽しく意見交換し、共有することを狙っています。

セッション1

学習者参加型の学び

座長：西城卓也 (MEDC) 講師：岡崎史子 (新潟大学)

アソシエイトポイント：TL 0.25

セッション2

学習に繋がる評価

座長：木村武司 (名古屋大学) 講師：猪田宏美 (岡山大学)

アソシエイトポイント：A 0.25

セッション3

今後育みたい新たな資質や能力

座長：山口佳子 (東京医科大学) 講師：酒井敦子 (南フロリダ大学)

アソシエイトポイント：CD 0.25

隣の教育実践を聴いてみよう！

新規拠点事業の新企画となります。テーマにそった演題をご発表いただき、カジュアルにディスカッションをしていただく内容となっております。今回のテーマは「あなたの教育実践」です。普段なかなか知る機会がない、他機関での教育実践の発表を聴き、意見交換することで、日々の教育実践を改善するヒントをみつけてもらうことを狙っています。

アソシエイトポイント：TL 各0.25 (両日参加で0.5)

第1セッション 5月29日 (木) 13:00-14:15

- 1-1 循環器理学療法部門におけるARCSモデルに基づいたOn-the-Job Trainingの実践報告
磯邊 崇 (昭和大学横浜市北部病院リハビリテーション室)
- 1-2 メドギフトでの「熟達化」に関する学びを活かした教育実践 -自己主導的な学習者・熟達化の支援-
児玉慎吾 (介護老人保健施設 恵風苑)
- 1-3 ソーシャルワーク実習における教育実践の報告 ～メドギフトにて獲得した知識と経験を、教育実践へと繋げる取り組み～
福田安代 (公立学校共済組合東海中央病院)

第2セッション 5月29日 (木) 15:30-16:45

- 2-1 患者からの声から学ぶ：投書を通じたプロフェッショナリズム教育の実践
高田 亮 (岩手医科大学 医学教育学講座)
- 2-2 基礎教育と卒後教育をつなぐ看護教育実践
末次典恵 (福岡大学医学部看護学科)
- 2-3 本学の早期臨床体験実習としてのエスコート実習の意義と学修効果について
堀田晶子 (帝京大学医学教育学講座)

第3セッション 5月30日 (金) 9:00-10:15

- 3-1 診療看護師 (NP) が行う教育実践
三宅 徹 (藤原記念病院)
- 3-2 脱出ゲームを活用した看護学生の計算能力トレーニングの教育実践
太田雄馬 (東京医療保健大学 医療保健学部 看護学科)
- 3-3 超急性期領域でのセラピスト育成 ～魅力ある卒後教育を目指したメドギフト終了後の私の挑戦～
藤田雅子 (医療法人鉄蕉会 亀田総合病院)

第4セッション 5月30日 (金) 10:25-12:05

- 4-1 魅力あるカリキュラム作り ～やってみないと分からない～
高柿有里 (大阪医療福祉専門学校)
- 4-2 薬学部実験実習におけるICTを活用した学習支援の取り組み
高尾郁子 (京都薬科大学)
- 4-3 診療参加型臨床実習における自律学習と調整型学習の促進
佐藤 直 (札幌医科大学 医療人育成センター)
- 4-4 SimMan3Gを用いた急性心筋梗塞初期対応のシミュレーション教育の実践
伊藤智範 (岩手医科大学)

医学教育研究で研究費申請書を書いてみよう ～科研費を主として～

菊川 誠(九州大学) 大久保由美子(帝京大学) 片岡仁美(京都大学)

医学教育研究を進めるにあたり、必要経費の準備は重要です。ただし、日本での代表的な研究費助成制度は科学研究費助成事業(科研費)です。ただ科研費の申請様式をみるとどう書いていいのか頭を抱えることも多いと思います。そこで今回医学教育をテーマに初めて科研費を申請しようと考えている医療従事者を対象に、ディスカッションを通じてお互いの研究費計画書をブラッシュアップするWSを企画しました。科研費申請を検討している方、関心のある方の応募をお待ちしています。

- 対象**
- ①医学教育をテーマに初めて科研費を申請しようと考えている医療従事者(ただし科研費申請資格がある方を優先します)
 - ②事前課題を提出いただける方
 - ③お互いの研究内容について守秘義務を守っていただける方

定員 40名

アソシエイトポイント: R 0.25

医学教育実践を「カイゼン」のフレームワークで最適化しよう

伊藤彰一・鋪野紀好・清水郁夫・塚本知子・笠井 大・山内かつ代・荒木信之・田島寛之・Fatema Nusurat・小野すみさき・木村康彦(千葉大学)

本ワークショップでは、「カイゼン」(Kaizen)の視点を活用し、医学教育実践を効率的かつ効果的に最適化する方法を探求する。医師の働き方改革が求められる中、教育業務の負担軽減と質の向上を両立するため、現状分析から改善策の立案・実行までの具体的な手法を学ぶ必要がある。「カイゼン」は製造業等で広く用いられる「3M(ムリ・ムダ・ムラ)」「4M(Man・Machine・Material・Method)」「ECRS(排除・統合・置き換え・簡素化)」等のフレームワークを応用し、問題の特定から実践的な解決策の構築までを実施する活動であり、その視点を教育業務に取り入れる。グループワークでは、具体的な教育業務を題材に、参加者同士が「カイゼン」の視点で現状分析や改善案を構築し、実行可能なアウトカムを導き出す。教育の質を向上させるための実践的な知識と技能を持ち帰り、持続可能な教育改革を推進できるよう支援する。

対象 医療者専門職教育を実践されている方、ご自身の教育実践を「カイゼン」することに関心のある方

定員 40名

アソシエイトポイント: ML 0.25

働き方改革時代の医療系学生臨床実習と学習アプローチのあり方

長崎一哉(筑波大学) 徳増一樹(岡山大学病院) 橋本恵太郎(筑波大学附属病院)

本ワークショップでは、働き方改革が医療系学生の臨床実習や学習方法に与える影響について深く掘り下げます。従来の教育スタイルを見直し、現場の負担を軽減しながら学生の学びを最大化する手法を検討します。具体的には、まずは国内外のエビデンスや知見を紹介しながら、現在の臨床実習を取り囲む環境について全体で確認していきます。さらに、参加者間での意見交換やディスカッションを通じて、各施設が直面する課題に応じた最適なソリューションを模索します。本ワークショップを通じて、働き方改革時代にふさわしい臨床教育の在り方を共に考え、新しい学びの可能性を切り拓く機会を提供します。

対象 医学生の臨床実習および研修医教育に関わる方

定員 40名

アソシエイトポイント: ML 0.25

Keys to a Strong Research Abstract: 国際学会に採択される医療者教育学抄録作成の鍵

林 幹雄(関西医科大学) 野村 理(MEDC) 鋪野紀好・清水郁夫(千葉大学) 水本潤希(愛媛生協病院) 藤川裕恭(慶應義塾大学) 菊川 誠(九州大学)

医療者教育に関する国際学会に参加するため、折角時間をかけて倫理承認を得てデータを収集し、研究を実施したのに、その抄録が採択されなかった経験はありませんか?本WSでは、参加者の皆様に持ち寄って頂いた「医療者教育国際学会にチャレンジしてみたい抄録」を小グループのピアレビューワークで議論を繰り返しながら、医療者教育の国際学会に採択される可能性を高めるため、その抄録を洗練していくことを目標とします。なお、抄録は日本語(英語も可)で事前提出頂き、ワークは全て日本語で行います。具体的には、「強力な研究要旨(抄録)の鍵」、「医療者教育の国際学会における抄録評価の観点は?」、「抄録を投稿する医療者教育の国際学会の決め方」等をディスカッションのトピックとする予定です。なお、以下の3点を参加要件とさせていただきます。

- ・将来的に医療者教育国際学会に挑戦してみたい抄録(日本語で可)を事前に提出頂ける方
- ・提出する抄録のテーマが研究倫理審査承認取得済であること
- ・本WSで共有される個々の研究情報について、運営側、受講生含めて守秘することをルールと致します。そのルールを遵守いただける方

対象 日本医学教育学会などの学術集会で医療者教育研究について抄録作成・学会発表を経験されている方、医療者教育国際学会の抄録作成への意志があるが、上記の抄録が登録・採択にまで至っていない方(ワークショップは全て日本語で行います)

定員 40名

アソシエイトポイント: R 0.25

グラフィック・メディスン マンガを活用した医療者教育の可能性

中垣恒太郎（専修大学） 落合隆志（日本グラフィック・メディスン協会） 森永康平（獨協医科大学） 鈴木 繁（ニューヨーク市立大学）

コミックスを医療者教育の現場に活用する「グラフィック・メディスン」の動向を参照しながら、日本の医療者教育および健康と医療にまつわる状況をより良くしていくためのマンガ文化の活用可能性を探る。「グラフィック・メディスン」は2007年に英米で提唱された概念であり、2018年には日本グラフィック・メディスン協会も発足した。さまざまな立場から医療に関心を寄せる者たちが集い、医療従事者、人文学研究者、表現者、患者とその家族をつなぐ交流活動の場を作り上げることを目指している。

本ワークショップは3部構成として、日本の医療者教育におけるマンガの活用可能性について展望する。

- (1) 英語圏の「グラフィック・メディスン」の動向（医療者教育の取り組みを中心に）
- (2) 日本におけるグラフィック・メディスン導入の可能性（患者視点の闘病エッセイマンガの活用を中心に）
- (3) マンガを活用した医療者教育の可能性を探る（ワークショップ型）

対象 医療者教育に興味がある人

定員 40名

アソシエイトポイント：TL 0.25

専門職連携教育（IPE）の初歩の初歩 -いいIPE、よくないIPEって何だろう

下井俊典・酒井郁子・井出成美・孫 佳茹・齊藤可紗（千葉大学）

近年、複数の専門職教育領域で、専門職連携教育（IPE）がモデル・コア・カリキュラムに明記され、IPEの実装が拡大しています。一方で、IPEを始めたいけれども、どういう授業・研修にしたらいいいのか悩んでいた、IPEを試してみたはいいけど、本当にこれでいいのか不安に思われている教育機関の先生や臨床現場の現任者の方も、いらっしゃるのではないのでしょうか。

今回、そうした先生方、現任者の方を対象として、「IPEの初歩の初歩」というテーマでワークショップを企画しました。「いいIPE」を考える2つのグループワークと、IPEの基礎を学ぶ授業を通して、みなさんの教育・臨床現場で実装すべき・できるIPEと一緒に考えてみたいと思います。IPEのご経験の有無や長短にかかわらず、また、教育機関だけでなく、保健医療福祉の現場の現任者の方もお気軽にご参加ください。

対象 IPEに携わっている・携わる予定の教育機関の先生や臨床現場の現任者

定員 40名

アソシエイトポイント：CD 0.25

カリキュラムに医療安全教育を組み込むには？

田中和美・岸 美紀子・渡辺 恵（群馬大学） 清水郁夫（千葉大学）

質の高い安全な医療の提供のためには、全ての医療者が医療安全を適切に理解しそれに基づいて行動することが必須である。このため、医療安全教育の重要性が高まっており、WHO世界患者安全行動計画2021-2030においても、7つの戦略目標の1つに「医療関係者の教育、技能、安全」が掲げられている。一方、どの職種においても、すでに過密であるカリキュラムにどのように医療安全教育を組み込んでいくか、誰が指導するか、など課題が多いのが現状である。本ワークショップでは、医療安全教育の国内外の潮流について概説した後、参加者の各施設における医療安全教育の現状と課題を共有し、既存のカリキュラムの中に医療安全教育を組み込む工夫や、職種共通に求められる内容の抽出、教育手法や指導者の育成について意見を交換し、自大学/自施設の医療安全教育の充実につなげる考え方をみつけてもらうことを目的としている。

対象 職種を問わず医療安全教育に関心のある方

定員 40名

アソシエイトポイント：CD 0.25

リフレクションの扉：ディブリーフィング入門

八木街子（自治医科大学） 衛藤由佳・万代康弘（慈恵会医科大学） 佐藤絵梨（ねりま健育会病院）

ディブリーフィングはシミュレーション教育において最も重要な要素とされていますが、「伝えたいことが多くて説明しすぎてしまう」「学習者が黙ってしまう」など、難しさを感じる教育担当者も少なくありません。本ワークショップでは、ディブリーフィングの理論的な枠組みや学習目標に沿ったプラン設計を紹介し、効果的な進め方を学びます。さらに、具体的なディブリーフィング事例を取り上げ、グループワークを通じて実践的な体験を重ねることで、自信を持ってディブリーフィングに取り組めるスキルを身につけます。理論と実践の両面から学ぶことで、学習者の振り返りを促すきっかけになるディブリーフィングができるようになることを目指します。

対象 シミュレーション教育を実施するすべての医療者・教育者

定員 40名

アソシエイトポイント：A 0.25

持続的に発展できる医療系大学の医療者教育部門／ユニットのこれから！

ユニットの会世話人グループ

西城卓也（MEDC）高橋 誠（北海道大学）椎橋実智男（埼玉医科大学）長谷川仁志（秋田大学）大槻眞嗣（藤田医科大学）赤池雅史（徳島大学）西屋克己（関西医科大学）小松弘幸（宮崎大学）

医学教育／医療者教育部門等、教育専従部署が全国の大学に設置されることが一般的になったこの時代、果たしてこれからの教育部門／ユニットの教員には、どのような役割が求められるのでしょうか。OSCE、臨床実習、入学試験、モデルコアカリキュラム改革、教員養成、ICT導入、教育研究等々、2000年代には想像もつかなかったほど現在の医療者教育は高度化し荷重がかかっています。リソースも限られるような環境の中、持続可能な発展を目指し、教育部門／ユニットにはどのような学習と成長が期待されるのか？教育センターのスタッフ確保をどのようにするか？卒後研修センターをはじめ他部門とどのように連携を強化するのか？研究費等予算をいかに獲得するか？近隣大学との連携はいかにすべきか？このワークショップでは、医学教育部門／ユニットおよびその教職員に今後期待される役割・能力・キャリア・ネットワークを占うべくオープンでカジュアルな議論をし、医学教育ユニットの会としての指針をまとめたいと考えています。

対象 医学教育／医療者教育の専従部署で働くスタッフの方、近隣大学との連携に関心のある方

定員 40名

アソシエイトポイント：ML 0.25

参加登録方法

MEDCホームページよりお申込みください

MEDC



参加登録期間

2025年4月1日（火）～20日（日）

参加を希望される方は、上記期間内に参加登録をお願いします。各企画には定員を設けています。申込順にて受付いたしますので、ご了承ください。なお、当日参加は受付いたしません。

参加費 5,000円（学部学生、東海国立大学機構 教職員・大学院生は無料）

開催地 国立オリンピック記念青少年総合センター
（〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1）